高等学校 令和7年度

教科 芸術 科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ E 組

教科担当者：(A・B組)

(D・E組：)

使用教科書：(光村図書)

使用教材：()

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情操を培う。

科目 書道 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写技能の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的技術を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	芸術科書道への関心・意欲・知識を高める。書の学習方法を理解する。書写と書道の違いを理解できる。書写の基本、姿勢態度、執筆を理解する。墨の磨り方や濃淡、滲み、かすれの表現効果を理解する。書体の変遷と各書体の字形や線の特徴について理解できる。	用具・用材とその手入れ方法。書写と芸術科書道の違い。基本姿勢、筆の持ち方等用語と形を一致させ、書く文字の大きさによる構えの違いを身に付ける。五体字類の使い方、各自の姓名漢字を調べ楷・行・草の分類を理解する。直・側による線の特徴を知り、楷書古典作品ごとにその鑑賞法と用筆法を理解できる。	【態】芸術科書道の学習に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 【知】構え、筆の持ち方等の名称と実際の姿勢が理解できている。側・直筆の動かし方とそれぞれの線の特徴を理解し、臨書に活かす。書体の変遷を理解し、五体字類の使い方と三書体の分類ができる。	○		○	10
	唐代の代表的な作品鑑賞で、時代背景・人物・書風等の基本点画な知識を身に付ける。臨書により字形、線質、点画の特徴を捉え、用筆運筆の習得する。	唐の四大家の人物、政治的背景を知る。四大家作品の臨書学習で字形、用筆等の技術を習得し、自己表現に活かせるようにする。	【知】四大家の人物、代表作、書道史上の位置づけについて理解している。字形、運筆、の遅速等の用筆の違いを理解し、表現できる。【思】四大家の書風の違いを理解している。【態】作品に関心を持ち、細部をよく観察し表現を改善し、自己表現に活かす努力をしっかりとっているか。	○	○	○	16
2 学期	行書作品の鑑賞と臨書により、行書の多様性を知り、表現に迷うことなくとり入れられるよう活かすことができる。	行書法の多様性を理解し、字形、用筆の特徴について視覚的な直観で捉え表現する。	【知】鑑賞から文字の特徴を理解して、視覚的な印象で行書を直観的に捉え、各自の姓名に応用できる。 【思】行書を形成する表現の要素を判断できる。 【態】行書に関心を持ち、鑑賞から行書の特徴を意図的に探り、表現しようとしている。	○	○	○	12
	行書の古典作品の鑑賞と臨書をおとして、人物、時代背景、作品背景、字形、点画の筆脈、抑揚等行書運筆の技法を習得する。	人物、作品背景を知り、その作品の特色、行書の筆脈と、抑揚、点画の連続等、行書法の特徴と多様性を理解し、表現する。	【知】臨書をおとして字形や線質の特徴を理解し、それを表現するための用筆、運筆の技法で表現できる。 【思】書風を的確に捉えその美を感じている。鑑賞をおとして書風とそれを形成する表現の要素を理解し、臨書に活かす。 【態】作品に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	16
				○	○		
3 学期	平仮名の成り立ちや字源を知る。仮名の鑑賞と臨書をおとして字形、線質の特徴を捉え、仮名書法の基礎的な知識や技術を習得する。決められた空間に文字配分を工夫して蓬莱切れの和歌を色紙に臨書する。	小筆の持ち方、構え、墨の磨り方と濃度の理解と確認。臨書により端正な字形や、連綿など線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。蓬莱切れの和歌の大意、変体仮名の読み方を確認する。	【知】用筆や仮名遣いの特徴、古筆の鑑賞、臨書していくための基礎となる知識と書法を理解している。空間を活かすことができる。 【思】書風を的確に捉え、その美を感じている。 【態】作品に関心をもち、その美を味わおうとしている。	○	○	○	16
				○	○		
合計							70